

読む

〈プレゼントコーナー〉毎月、10名様に当たる!

読者アンケート(98ページ)ご回答の方へ、「読む」掲載書籍や、オリジナルタログッズが当たります。どしどしご応募ください。

金丸弘美 著

『幸福な田舎のつくりかた』

—地域の誇りが人をつなぎ、小さな経済を動かす—

本書の帯に一有川浩氏(小説「県庁おもてなし課」著者)推薦! この一冊で観光小説が何本も書けそうです。一と書かれてある通り、日本各地の地域の取り組みがいかに実ったかという例が取り上げられている。人が来なくなった観光地、人が集まらなくなった商店街、高齢化で野菜を売るルートが途絶えてしまった農村、林業が衰退した山間地など、一度はどん底に落ちた地域がどのように再生し、活性化したかが紹介されている。

日本は戦後の復興から高度成長期を迎えバブル景気に浮かれ、人びとの消費も拡大した。しかし時代とともに高齢化が進み、特に地方の衰退は大きい。もともと日本人は自然と共存し、その恩恵に感謝しつつ生活してきた。それが一

四六判
208ページ
定価1,890円(税込)
学芸出版社

時の繁栄という錯覚にとらわれ、本来の生き方を見失ったのだが、その過ちに気づき、もとの暮らし方に戻ろうという考え方が、日本の各地でよみがえっている。しかし昔の暮らしに戻り、自給自足に満足して日々を送れば良いというのでは「生活する」という意味がない。人は生活することで、充実感、満足感を得て、それがさらなる向上心、信頼感につながっていく。

人びとが真の生活を取り戻すための努力、工夫、実行の結果、元気がなくなった今の日本の中で生き生きと輝いているこれらの地域、ぜひ訪れてみたくなること間違いなし。日本が帰るべき原点を教えてくれる1冊だ。

(編集部・関 はる子)

